



楠の葉

佐賀大学同窓会報 第14号

発行日 2011年1月1日

発行 佐賀大学同窓会

佐賀市本庄町1 佐賀大学内
TEL 0952-23-1253
FAX 0952-25-5700
E-mail dosokai@ai.is.saga-u.ac.jp
ホームページ http://dousou.ext.saga-u.ac.jp

編集代表者 宮原 義幸

新年明けまして おめでとうございます

佐賀大学では、「佐賀大学中長期ビジョン」を始め多くの教育改革に関する提言がなされてきました。また、「学士課程教育の構築に向けて」（中教審答申）等に見られるように、外部からも教育改革を求められています。これらのことを受け、佐賀大学第2期中期計画には「平成23年度を目処に『全学教育機構』を創設し、新カリキュラムへの移行準備を経て、平成25年度から新たな教養教育を実施する」と明記されました。



この機構は、本学の教育の基盤的組織として、学生の成長と未来を支える教育を推進するとともに、学生が自らの成長を実感できるように、学士力育成を支援することにより、本学の教育の充実・発展に寄与するものです。

この節目を迎えるにあたり私ども卒業生は「我々を育ててくれた大学に対して何をなすべきか」をよく考え、行動を起こし、これからの社会を支えてくれる有能な人材の育成に、接続教育の役割を果たしていきたいと思ひます。



写真提供

・籠田 和徳（文理・29卒）
・佐賀大学広報室

朝日
熱気球

佐賀大学同窓会会長 宮島 豊秀（教育・35卒）

支部だより

諫早支部 秋の夜長を楽しんだ一夜

9月25日(土)、佐大同窓会諫早支部の懇親会がニューステーションホテルで開催されました。

当日は支部会員17名に加え、本部から来賓として宮島会長、梅崎副会長、田中副会長、そして鳥原支部から大平支部長、福田副支部長にも駆けつけて頂き盛会でした。宮島会長からは、佛淵新学長のもと母校は中期計画目標達成のため地域に貢献する大学、就職支援の一貫として定着しつつある「キャリアデザイン講座」などの活動状況、またハード基盤整備の状況について説明があった。梅崎副会長からは主として楠葉同窓会の活躍ぶりについての披露がなさ



れた。支部会員の出席は、文理・経済・農学・理工・教育の各学部からの出席で、来賓を囲んでの情報交換、懇談で座は一層盛り上がった。支部長からは今後の方向として若手会員への接近、また近隣の大村・鳥原支部との交流にも力を注いでゆくことが急務という話があった。少人数の集まりではあったが和気あいあい、秋の夜長を楽しんだ一夜でありました。

文責 臼井 寛 (文理法・30年入)

筑後支部講演会・総会・懇親会

平成22年11月13日(土)、柳川市内「ランヴィエール勝島」において標記会合が開催された。

本部から光岡理事長、有馬副理事長、椿理事、山口副会長代理の4氏に参加していただき、それに支部会員34名(うち女性4名)が出席した。会に先だち、佐賀県基山町在住の大石政隆氏(S31年文理卒)を講師に招き、「やればできる」というテーマで講演があり、社会人として活躍している半ばで不慮の交

通事故に遭い、それがもとで完全に失明した。だがそれを隠さず公表したことがきっかけで逆に多くのひととのふれあいができたとのこと。その後全員で記念撮影。前任の松葉支部長の不慮の死去に伴う黙とうをささげ、本部代表光岡理事長の本学の現況説明があり懇親会に入った。近藤氏(S28・文理)の乾杯で祝宴となり、福田氏(S29・文理)の「巻頭言」「南に遠く」が始まると、どこからとなく踊の輪が広まり過ぎ去った青春時代を満喫した。

支部長 大村 直^{ただし} (農学・40年卒)



大石政隆氏による講演



佐世保支部（むつごろう会）

平成22年11月20日(土)、15時より佐世保駅前レオプラザホテルにて第16回「むつごろう会」(全学部同窓会)を開催しました。今回は平成20年・21年卒業の皆様方を含め250余通の案内状を出しました。残念ながら23名(内女性2名)の出席でした。平成になってからの卒業生が皆無で寂しい限りです。

会合は総会・講演会・懇親会の順に行われ、総会では事務局の竹藤広敏氏(教育・59卒)より次回開催についての確認や今後の取組み等について提案がありました。総会の後、佐世保史談会会長平川定美氏(教育・26卒)が「伊能忠敬と佐世保」と題して講演をされました。平川先生は80歳を超えられても矍鑠としてお話をされ、その話術に引き込まれて行きました。先生は「伊能忠敬の佐世保測量行程図」〔文化9年(1812)12月7日より文化10年(1813)5月26日まで〕を参照しながら説明されました。

『忠敬は51歳の時、高橋至時の門に入り天文学を学ぶ。江戸深川に居を定め、観測機械を備えつけて天測に専心する。忠敬は寛政12年(1800)4月江戸深川を出発、蝦夷地測量を私費を投入して始める。(第1次測量)、以後第10次測量まで17年間測量が行われる。佐世保の測量は第8次測量日程の中で実施された。佐世保地区は出入の激しい海岸や多くの島々が散在しており長い測量期間を要した。』

佐世保を測量した人々は、忠敬の供侍(秘書的役割をもつ従人)・従者(忠敬が自費で連れてきた世話人)・天文方下役(暦局に出向し天文方高橋景保の手附下役を勤める幕臣)など19人に及んだ。

測量先では荷物運搬などの人夫・案内人(その地域を熟知している人)・絵地図・舟・島々の測量等々の提供が必要であった。より正確な地図を作成するために天測ができる宿舎の提供も欠かせず、本陣(忠敬の止宿)ではその条件が満たされねばならなかった。

一相浦周辺及び九十九島測量について一

「文化十 癸 酉年一月朔日、朝晴天、午後曇、松浦郡相神浦村内賤津浦迎春。此夜測」これは忠敬が相浦で正月を迎えた時の日記である。この時忠敬69歳、古稀を迎えた慶びと、長生きして多くの地を巡りたいという意気込みが次の歌で伝わってくるようだ。〈七十に近き春にぞあひの浦九十九島をいきの松原〉

1月4日より測量開始、曇天・霽・風雪まじりの寒い日々をついで無名の島々を丹念に測量している。九十九島の島の数は「208」。そのうち北九十九島が「128」、南九十九島が「80」、人が住み生活している島は4島のみで、204島は無人数島である。伊能測量隊は南九十九島「80」のうち約90%の「70」の島を測っている。極寒のこの季節、測量隊の困難と労苦が偲ばれる。忠敬をして測量に駆り立てたものは何か、それは学問への情熱と探究心であった。忠敬の壮大なる野望は、1. 緯度1度の正確な長さを究め



たい。2. 正確な日本地図を作成したい。3. 地球の大きさを知りたい。ということであった。

全国測量年数は1800年～1816年、忠敬55歳から71歳まで17年に及ぶ。測量日数3,736日、全行程距離43,707km(地球ほぼ1周)、全行程歩数約4,000万歩(1日1万歩で11年)ただただ平伏すばかりである。』

幕命で1800年～1816年に全国の沿岸を測量し「大日本沿海輿地図」作成に当たった伊能忠敬。幾多の困難にもめげず、実測により驚異的な正確さを誇った忠敬の偉業には、本当に畏敬の念を禁じ得ません。

さて、来賓の方々は、佐賀大学同窓会会長宮島豊秀氏(教育・35卒)、楠葉同窓会副会長百武英明氏(文理・41卒)、理工学部同窓会副会長秋永正幸氏(理工・45卒)、農学部同窓会副会長有馬進氏(農学・52卒)の4氏です。来賓を代表して同窓会会長宮島豊秀氏より大学の現況等についてお話がありました。「国立大学法人佐賀大学は予算が100億から90億に削減され、首長さんや各企業回りで忙しい。5学部の卒業生は有朋会13,148名、楠葉10,966名、医学部3,513名、理工学部15,630名、農学部6,549名、合計49,806名である。佐賀大学の就職率は62.8%で全国平均を少し上回るが、不況の中、面接3次で落ちないように出口指導に力を注いでいる。大学には美術館構想等があり、大学の顔が整いつつある。」ということです。母校の更なる発展を願わずにはられません。

最後に懇親会が始りましたが、自己紹介が延々2時間近くに及び、余興の時間が全くとれない状況でした。来賓の方々は帰りの電車の都合で中座されることになり、誠に申し訳なく思っております。

最後は、副会長川島達也氏(教育・43卒)のハーモニカに合わせて佐賀大学学生歌「楠の葉の」を合唱し、2年後2012年11月17日(土)の再会を約しながらお開きとなりました。

付記

「むつごろう会」総会の翌21日(日)、私は喜寿祝賀のご招待を受け、「グランデはがくれ」で開催された平成22年度有朋会総会ならびに懇親会に出席致しました。会場では記念品として宮尾正隆先生の白磁に紫色の「有朋」の文字の入ったすばらしい額皿を頂戴致しました。見に余る光栄です。ここに改めて感謝申し上げます。有朋会の皆様ありがとうございました。

会長 杉原 義秋(教育・31年卒)

大分支部（豊後はがくれ会）

紅葉の美しい時期（11月13日）に、大分市内のホテルにて宮島同窓会会長をはじめ4名の副会長と支部会員30名の参加をもって支部総会と懇親会がおこなわれた。来年度も役員留任となった（牧野、清末、島田）。

美味しい料理と酒が進むと、どのテーブルも近況報告と昔話に盛り上がり、わいわいがやがや。会場は笑顔で一杯。参加者全員の記念写真をプロにお願いしたので、送付に間に合わなかった。写真は走査電子顕微鏡でとった日本で最も小さいハッチョウトンボの顔です。笑顔に溢れた表情だ。このトンボは大分の各地で生息し、大分の自然環境が素晴らしいことを物語っている。



今年度、会員の親睦をはかるために、無垢島（津久見市、椿の島）のんびり一泊の旅やゴルフコンペを行った。さて、来年度は何か楽しいイベントをと思っている。花見（桃、桜、梨、チューリップなど）、温泉、島巡り、食（フグ、関アジ、関サバ、マグロ、ハモ、姫ダコなど）、ゴルフ、ハイキング、テニス等の企画がありましたら、役員までお知らせ下さい。

支部長 島田 達生（農学・42年卒）

東京支部総会・懇親会

平成22年11月18日（木）、八重洲富士屋ホテルに於いて、東京支部の総会及び懇親会が開催されました。

本部から宮島佐賀大学同窓会会長をはじめ、3名の副会長の参加をいただき、文理・農学・経済・理工・教育の5学部の老若男女総勢60名が集い、久しぶりに学生時代に戻り、大いに話に花が咲きました。総会では宮島会長から、大学や同窓会の現状・活動状況等の話をうかがいました。懇親会では各所で先輩・同輩・後輩達が入り交じり和気あいあいの中、時間の経つのを忘れました。宴後半の“お楽しみ福引”では、司会者が“当選番号”を読みあげるたびに、“大歓声”が上がり大変盛り上がりました。最後



に不知火寮寮歌“南に遠く”の巻頭言で元寮生達が、老体？に鞭打って歌い踊りました。そして学生歌“楠の葉の…”を全員で合唱しフィナーレとなりました。お互い次回の再会を約し散会しました。

支部長 和田 紘一（文理・40年卒）

第18回「佐賀県青春寮歌祭」が開催

第18回「佐賀県青春寮歌祭」が11月20日（土）の午後1時から、佐賀市交流センター「エスプラッツホール」で開催されました。

今回は24校の参加があり、県内在住の各大学の卒業生約300人が集い、寮歌や校歌を高らかに歌いました。

全国各地の旧制高校寮歌祭は高齢化、後継者不在により次々に幕を降ろすなか、旧制と新制が合体した「佐賀方式」が求められています。

来年の開催日（平成23年11月19日（土））も決定しております。ご参加をお待ちしています。



田中嘉生教授日展で特選受賞

さらなる活躍に期待集まる



田中嘉生教授

文化教育学部の美術・工芸教室で染色を指導している同窓生の田中嘉生教授が、第42回日展の工芸美術部門で特選を受賞しました。

田中教授の作品は、ろう染めの中でも抜染技法というユニークな技法で制作されたものですが、ノバラにチョウが舞うという晩春の情景を表現し、日展の特選評で「見る者を黄金色に輝くひとときに誘う情感あふれる作品。表現と技法、素材の関係を強く意識していることが見え、理知的な表現は大変魅力的」という高い評価が与えられています。

写真に見られるように、背景には暮れなずむ頃に見られる黄金色の光を染め、大胆な構図と繊細な描写が見事に融合した魅惑的な作品に仕上がっています。特に、背景の色は黄色を主体に染めたものですが、それが黄金色に見えるという点にこの作品の魅力があり、田中教授の才能のほとばしりが見られます。

同氏は、これまでも各種の展覧会で入選、入賞を重ねてきましたが、日展入選は今回が30回目になります。以前から繊細で情感あふれる作風には定評があったのですが、最近は長い期間にわたる技法研究の成果もあって、さらに重厚さが加わってきたように思えます。今後も田中教授ならではの魅力あふれ

る作品が生まれることでしょう。

田中教授は、佐賀大学で故・城秀男名誉教授の指導を受け、卒業後は福岡県の短大で教員を続けていましたが、現在は母校の佐賀大学に戻り、後進の指導をしています。熱心な指導のもと、学生たちは毎年染色教室の展覧会を開き、日展に連続入選する後輩も育っています。

同氏には、今後も、研究、制作、教育など多面的に活躍されることが期待されています。

（文責：前村 晃・昭45卒）



田中嘉生教授の作品「夏待つ」

佐賀大学経済学部と 楠葉同窓会との意見交換会

11月16日(火)、定例の標記意見交換会が佐嘉神社記念館において18時から開催された。

経済学部から富田学部長、山下副学部長、畑山教育委員長、橋本事務長、木島就職支援課長の出席があり、同窓会からは梅崎会長外5名が出席をした。

富田学部長から経済学部の教育・研究、就職支援、地域貢献等について次の説明があった。

「教育についての特色」としては、

- 1年次からゼミなどの少人数教育を行う。
- 受け入れるのみではなく特にアジア地域への留学等、双方向の国際交流を展開する。
- 実践家（経営者・法律家等）による講義やネイティブイングリッシュの充実等に努めている。

「同窓会との連携・同窓会からの支援協力」については、

- 人材の供給、就職活動に関して地元を始めとして広く企業や各種団体とのパイプを活用することが有効である。
- 更に、地域貢献としては学部の地域経済研究センターの役割を梃子として研究及び学生の実践的教育につなげて行きたい。

木島就職支援課長からは、10月1日現在の就職内定状況について説明があった。

厳しい経済環境を反映し、全国の四年制大学の就

職内定率は57.6%である。佐賀大学（全学部）では62.8%、経済学部については69.6%（前年同期66.9%）であるが一昨年の内定率86.2%と比較すると16.6ポイントの減であり、今後なお一層の努力が必要となっている。

経済学部と楠葉同窓会の連携協力については、今後具体的にどのような事業をどのように実践していくかの議論を深化させていくことが求められる。

このため、今後は更に両者による議論の在り方についても多様な機会の設定等の検討を進めていくこととなった。

文責：宮原 義幸（42卒・文理法）



拝啓、山の上より

神崎市国民健康保険脊振診療所長 徳富 潤 (医22期)



テレビもねえ、ラジオもねえ、車もそれほど走ってねえ…とまでは行かないが、私が勤務する神崎市国民健康保険脊振診療所は結構な田舎に存在する。佐賀市中心部から脊振山方面に車で登ること約1時間、寂しい山間の村。いわゆる「僻地」である。誤解を招かないようにきちんと訂正すると、テレビもねえ(ことはねえけど、地デジじゃねえ)、ラジオもねえ(ことはねえけど、あんまり聞こえねえ)、車もそれほど走ってねえ(ことはねえけど、軽トラばかり)、コンビニなんてみたことねえ、でもネットだけはなぜだかブロードバンド。といった具合である。This is 僻地。

さて、そこで私が何をしているのか?というお話を今回はさせて頂こうと思う。1年8ヶ月前の春、私は所属する佐賀大学医学部総合診療部の命を受け、この脊振診療所にやって来た。赴任初日、4月1日だというのに山は雪が降っていた。診療所の建物は古く、暖房の効きも今ひとつで足の先が痛くなるぐらい冷たくなった。医者は自分しかいない、医療設備も古く頼りない、知り合いもいない、「寒い、、、」心が折れそうになった。というか折れた。「早く下界に戻りたい。」それが当初の正直な気持ちであった。

それでも患者さんはやって来る。ポツリポツリとではあったがやって来る。しかし初めて会う患者さんたちは口々に「また新しい先生ね。いつまでおらずと?」と言う。初対面というのに終わりのことばかり聞いてくるのである。私が赴任する前の1年間、脊振診療所には常勤医がおらず月替わり、週替わり、時には日替わりで医者が入れ替わっていたからであ

る。毎回来るたびに知らない医者で、いつまでいるのかわからない。それが住民の信頼を失い、それにより患者さんは診療所を離れ、数少ないバスで不便な思いをして山を下り、麓の町の病院に通うようになっていた。2週間も経つと、そのような診療所の現状が見えてきた。このままでは診療所が消滅してしまうのでは、とすら考えた。仮に蓮〇氏に真っ白いスーツで「必要なんですか?」とかわれたら返す言葉がない。私にとって初めての「僻地医療」、どうすればよいなどわかりもしなかったが、とにかく診療所を活性化しよう、診療所を守ろう、この地域にとって必要な診療所にしよう、蓮〇にも文句は言わせない(そもそも言われてないけど)!それが目標になった。

そこでまず私がしたことは営業活動であった。老人会・婦人会・育友会・ゲートボール大会・地区の飲み会・町のお祭りetc至る所に顔を出してPRを繰り返した。「困ったらとりあえず診療所へ」。遠くまで行かないと医療の選択肢が得られない山の住人たちにはお気軽な総合診療医(というよりコンビニ医)ですよ、と伝えることが何より安心感を与えると考えたからだ。膝の注射1本を打つために1日4・5本しかないバスに乗らなくてもいい。ろくに話も聞いてくれないのに降圧剤をもらうためだけに往復1時間以上もかけなくていい。近くて便利に使ってほしい。「コンビニ受診」が問題になって久しいが、下界とは反対で山の上では「コンビニ受診」が必要であった。まあ、実際本物のコンビニもないのだけど…。もう一つPRする上で大切にしていたことが、

写真は、神崎市国民健康保険脊振診療所です。

自分も山の住人であるということであった。この町に自分を受け入れてもらうためには、自分がその町にしっかり飛び込んでいかないと考えた。夏祭りではご婦人方と一緒に盆踊りで華麗にステップを踏み、町内運動会では全力疾走の挙句、豪快に転倒し立派に膝をすりむき…。その甲斐あってかどうかは分からないが、山の人々は私を受け入れてくれた。

そうして今、私は診療所の医者として山の人々の生活の中に存在している（と思っている）。「地域医療」とは単純にその地域で医療を行うことではなく、その地域の一員として医療を担うことと感じている。その地域に住み、生かされている中で自分の役割としての医療を行うこと。風土や人々の習慣、特性、ローカルルールを理解して人々の生活の一部として医療を行うこと。実際、そうすることで初めて見るような世界がある。往診に行って「先生！取れたて！いる？」と言われて見てみたら、天に召されたばかりのほかほかの猪が軽トラの荷台にボツェリ横たわっていたり、「山仕事で怪我をしてなかなか治らなくて…」というおじいちゃんの足を見てみたら20cmぐらいの立派な裂創があってグラグラ出血するのに、丸一日何かよく分からない謎の葉っぱを傷口に当てていたり、そもそも診療所があるところがお山だと思っていたら、そこからさらに車で20分ひと山越えたところにも集落があったり（同じ町内）、庭にヤマカガシがぬるっと現れて涙目になったり…挙げていったらキリがないが、ザックリまとめるとちょっとしたワンダーJAPANである。自分が医者として診る人々がどのような生活をしているのか、それを知ることで接し方や自分のとる行動が変わってくる。医者は自分の尺度で、患者の立場に立った「つもり」で患者に接する。それは、医者にとってほとんどの患者が診察室や病室で目の前を通り過ぎていくだけの人に過ぎないからだ。厳しく不便な環境で我慢強く生きている山の人々を間近でみて、いかに医療が偉そうに傲慢に人々の生活に介入しているかを痛感した。自然と隣り合わせで生きている人々にとって、医療はその生活を邪魔しないようにちょっと寄り添うぐらいのものでなくてはならない。

うまく表現することは出来ないが、ここでは人付き合いの延長で医者と患者という関係を構築している。今やこれは田舎という閉ざされた特殊な社会で

しか構築することの出来ない関係なんじゃないだろうか。現在ほとんどの場合、医者患者関係は仕事の上でのみ成り立っている。病院の中で会えば医者と患者だが、ジャ○コで会えば一般人同士。ゆ○タウンで会ってもモ○ージュで会ってもそう。しかし、田舎ではどこで何をしようとは私は医者という住人として人々から接される。仕事とプライベートの区別がないと言われればそれまでだが、社会の中での医者の役割が縮図となって見えてくる。社会という組織の中で、医者である自分がどのように社会に貢献するのかを考え、その結果を自分で見ることが出来る。これも田舎という小さく閉じた社会で医者をしているからこそだと思う。そういう社会を経験することで、私は今医者としてというより、人間的に成長できたような気になっている。あくまで気になっているだけだが。

医師不足が叫ばれて久しい。僻地も例に漏れず、医師不足であり全国的には統廃合される僻地診療所や病院も決して珍しくはない。そこで今こそ求められているのは総合診療医であると考えている。「No」と言わない、「とりあえずどうぞ」といえる医者。ヒガ○ヤマみたいな診断の鬼みみたいな総合診療医も確かに格好良く見えるかもしれない。しかし、田舎で泥臭く人情に囲まれて、時には香典袋の表書きを頼まれたりする（実話）医者をやるのも悪くない。Dr.コトーみたいに、柴咲○ウみみたいな人がいることは皆無と言って良い。それでもこの世界に少しでも多くの医師が飛び込んでくれることを望む。最先端の医療にどっぷりの世界では決して見ることのできない世界がそこには広がっているはずだ。

あ、平成22年12月13日現在、ついに地デジ化が完了しました。



卒業生へのメッセージ

12



北村 二雄

大学院工学系研究科循環物質化学専攻 専攻長
 (理工学部機能物質化学科 学科主任)

機能物質化学科の卒業生の皆様、明けましておめでとうございます。皆様、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

機能物質化学科もここ数年の間にいろいろと変化がありました。平成22年から、大学院の改組により機能物質化学専攻と循環物質工学専攻が統合した「循環物質化学専攻」ができました。さらに、機能物質化学科、機械システム工学科、電気電子工学科を母体にもつ先端融合工学専攻が創設されました。機能物質化学科の教員は、循環物質化学専攻（平成22年12月現在19名）と先端融合工学専攻（6名）に配属されています。機能物質化学科では、以前の化学科と工業化学科の統合、循環物質工学専攻の創設といくつかの変遷を経験してきましたが、平成22年度は新しい体制の誕生となりました。しかしながら、化学科及び工業化学科のころから築き上げられた絆は強く、教育研究に生かされ、従来通り協力して教育研究を実施しております。

教員の人事にも変動がありました。ここ数年の間に井上勝利先生、田端正明先生、永野正光先生、江守周二先生、西河貞捷先生、堀勇治先生が退職されました。現在、教育研究充実のため、教員の公募を行っているところであります。

現在、機能物質化学科は、機能材料化学コースと物質化学コースの二つのコースに分けて教

育を行っています。機能材料化学コースは、平成18年度よりJABEE（日本技術者教育認定制度）教育コースとして認定され、全国的に認められた技術者教育であり、社会の要求を満たしている卒業生を送り出しています。物質化学コースは、豊富な選択科目と教員養成のための科目が取得可能で、幅広い化学知識と実践力を身につけた人材を育てております。また、平成22年度はノーベル化学賞が日本人お二人の先生方に授与されたこともあり、日本の化学が世界の頂点に達していることを示すものであり、機能物質化学科もますます充実した教育研究を行い、優れた卒業生を社会に輩出すべきであると日々努力しております。



農学部就職ガイダンス

—農学部同窓会によるキャリア支援—

平成22年11月17日(水)に「農学部就職ガイダンス」が農学部で開催され、農学部3年次学生を中心に62名が参加しました。本ガイダンスは、農学部学生の就職活動を支援するために、農学部就職委員会と農学部同窓会が協力して企画しました。企業や官庁等で活躍している農学部OBを講師に招き、農学部3年生および修士1年生を対象に職場での仕事内容、会社概要、採用状況、就職活動の体験談等について話をして頂いた後、参加者との意見交換を行っています。このガイダンスは毎年実施されており、今回が7回目の開催となりました。この間、ガイダンスを切掛けに就職先を決定した者も多数出てきています。

今年は、企業から伊藤ハム(株)九州工場の長野沙織氏(平成22年卒、生化学)、山崎製パン(株)福岡工場の向井賢吾氏(平成21年卒、応用微生物学)に講師をお願いしました。この二社からは人事担当の方にも参加して頂き、会社概要や採用状況等について説明して頂きました。また、嘉麻市役所土木課の辻田あずさ氏(平成9年卒、農業水利学)には地方公務員の仕事内容について紹介して頂きました。最後に、農林水産消費安全技術センターに内定した五十嵐総一氏(平成22年卒、果樹園芸学)には「国家公務員Ⅱ種(農学)合格体験記」と題して、公務員試験に

合格するためにどのような準備をし、どのように取り組み、就職活動を通して自分自身がどう成長したか、分かりやすく話して頂き、参加した学生は熱心に耳を傾けていました。

今年の就職環境は例年になく厳しく、10月1日現在の農学部における就職内定率は61.8%と前年同期に比べ、3.7ポイント低下しています。この状況はしばらくは続くと思われます。今後とも、在学生の就職活動を支援するために農学部同窓会の皆様のご協力をお願いいたします。また、講師を快く引き受けて頂いた卒業生の皆様にはこの場を借りて厚くお礼申し上げます。

文責：光富 勝 (S51年卒・農化)



同窓生の職場 14

佐賀大学

私が佐賀大学に職員として採用されたのは、佐賀大学と佐賀医科大学が統合した平成15年10月1日です。当時は2つの大学が統合して1つになったということで、学内全体がバタバタしているような雰囲気だったことを憶えています。

大学職員となつてまず衝撃を受けたのは、学生時代に抱いていた大学職員のイメージとの違いです。教務関係以外にも多くの職員の方々が、様々な部署で勤務されていたことです。同時に、大学組織の規模の大きさにも驚かされました。

統合に続いて半年後の平成16年4月には、みなさんをご存知の国立大学の法人化という大学にとって大きな変革がありました。現在、私が所属している企画部企画課は、国立大学法人化制度の象徴ともいえる、中期目標・中期計画に関する業務を中心に行っている部署です。

中期目標・中期計画は6年間の大学運営の基本方針であり、大学全体として着実な達成が求められます。また、中期目標・中期計画以外にも、毎年度、中期目標・中期計画を達成できるように年度計画を作成し、着実に実行することが求められています。中期目標・中期計画及び年度計画は、作成過程から実行、達成に至るまで、佐賀大学の構成員全員が関わるものであり、最終的には大学全体の取組として評価されます。そのため、その作成過程の意見の取りまとめ、達成に向けての進捗状況の確認など、一筋縄ではいかない業務は

かりですが、佐賀大学も1期目から2期目にはいったということもあり、これからますます重要な業務であると日々感じております。

さらに企画課の主な業務として、改組に関する業務があります。簡単にいいますと、学部・研究科の改組を行う際に、企画課が文部科学省との折衝等を行う大学の窓口となり、改組に関する調整・手続き等を行います。大学の学部・研究科も時間がたてば、教職員が入れ替わり、社会からのニーズも変化していきます。したがって、それに見合った組織に変えていく必要が生じます。大学を取り巻く環境が非常に厳しいときだからこそ、改組する内容が非常に重要となってきます。

以上、企画課の主な業務を紹介しましたが、課内でも一番年齢が若いということもあり、様々な先生・職員の方々に助けられながら日々業務に励んでおります。

最後になりますが、私は佐賀大学が職場ということもあり、これから同窓会の諸先輩の方々と接する機会に恵まれていると思います。佐賀大学の卒業生、佐賀大学の職員として、まだまだ経験が浅く新参加者ですが、どうぞよろしくお願いいたします。

坂口 暁哲（経済学部 平成14年卒）



第32回むつごろう祭を終えて

医学科3年 松本 佑慈

今年も10月8～10日にかけての3日間、佐賀大学医学部学園祭「むつごろう祭」が開催されました。テーマは「全緑疾走 佐賀医～んだよ～ グリーンだよ～ 2010」。緑というテーマカラーには、実行委員一人一人が一枚の若葉であり、大きな輝かしい緑を全員で育てていくという意味が込められています。そして、「全緑疾走」という4文字はそのエネルギーを爆発させて突き進んでいく様を表しています。

さて、今回お呼びしたゲストも3人ロックバンドのサンボマスターや、トップモデルの西山茉希氏、若手お笑い芸人のクールポコ・ハライチ、メディアでも活躍中の茂木健一郎氏などと、様々な著名人をお呼びし、来場者の方々も大いに楽しんでおられました。

また、ステージ企画やキッズスクエア、医学展、献血などオリジナリティ溢れるイベントも企画され、医学生ならではの学園祭作りには実行委員共々、四苦八苦しながらも新しいものを創造していくという充実感を感じていました。

最後になりましたが、今年も無事に学園祭を成功できたのも様々な方々からの支援があってこそだと深く感謝しております。この度は、佐賀大学同窓会から多大な寄付を賜り、実行委員一同、心より御礼を申し上げます。



本庄地区大学祭

11月13日(土)・14日(日)の両日に佐賀大学本庄キャンパスにて、第13回大学祭が開催されました。今年は両日ともに天候に恵まれ、インフルエンザ蔓延の心配もなく無事に大学祭を終えることができました。第13回大学祭は、昨年の無念をはらすべく各企画で来場者の皆様をより盛り上げるような内容を行いました。芸能人の登場の際は、会場一同が、笑い声からすことなく楽しむことができたのではないかと思います。今年の大学祭で、少しでも来場者の方々・地域の方々・在学中の方々の気持ちが一塊となって楽しめて頂けたなら幸いです。来年度以降も、大学の一大イベントとして、我々引退組もいますが後輩達が歴史をつらねていくことを願っています。最後になりましたが、佐賀大学同窓会の皆様・地域の皆様・佐賀大学の皆様、その他大学祭に関わった全ての皆様に心より感謝致します。



第6回キャリアデザイン～自分発見講座～

平成17年度から佐賀大学同窓会と佐賀大学が共催で毎年実施している、「キャリアデザイン～自分発見講座～」が10月から始まりました。

キャリアデザインは、毎年、後学期に教養教育科目の主題科目（2単位）として開講されています。

キャリアデザインの『講義概要』には、「キャリア教育には職業進路指導という狭い意味のものと自らのキャリアデザイン（人生の設計）につながる広いものがあります。キャリア教育とは、自分探しや自己発見探求をすることによって、キャリアデザイン、より具体的には、職業進路探しの基礎を学ぶものです。本講座を通して、大学で学ぶことの意味の再発見や社会の動向を知る契機となることを期待しています。」と記載されています。

各学部同窓会は、15回の講義に「〇〇学部出身の先輩に聞く」として、産業界、教育界、医学界、農林畜産業界等の各分野で活躍しているOB、OGを講師に派遣して、各界の最新情報やロールモデル（人生のお手本）を提供しています。

景気の低迷の中で昨年以上に厳しい就職状況を反映してか、今年も約300人の学生が受講しており、受講態度も真剣そのものです。

同窓会は、各界で活躍する先輩諸氏の講話が、就職対策のみならず、大学で学ぶことの意味を考える機会になり、学生諸君のキャリアデザインの一助となるよう、これからも協力していきたいと考えています。

(文責 楠葉 江口)



キャリアデザイン（自分発見講座）の講義日程

講義順	実施月日	内 容	担 当 者
1	10月6日	ガイダンス（講義の進め方）	
2	10月13日	経済学部出身の先輩に聞く	原 佳 祐 (H20・経営法律) 西日本シティ銀行
3	10月20日	経済学部出身の先輩に聞く	古 川 里 紗 (H20・経済システム) 大和証券株式会社
4	10月27日	民間企業・公務員内定合格者体験報告会	在学生（就職内定者）
5	11月10日	文化教育学部出身の先輩に聞く	田 本 嘉 昭 (H15・学校教育) みやき町立北茂安小学校
6	11月17日	文化教育学部出身の先輩に聞く	川 原 まりこ (H19・国際文化) 東京海上日動火災保険株式会社
7	11月24日	理工学部出身の先輩に聞く	矢 島 立 朗 (H20・機械システム工学専攻) 三菱重工業株式会社
8	12月1日	理工学部出身の先輩に聞く	牛 島 直 記 (H20・知能情報システム専攻) 株式会社ゼンリン
9	12月8日	民間企業・公務員内定合格者体験報告会	在学生（就職内定者）
10	12月15日	医学部出身の先輩に聞く	坂 西 雄 太 (H13・医学科) 佐賀大学医学部 地域医療支援学講座
11	12月22日	医学部出身の先輩に聞く	藤 瀬 佳 菜 子 (H16・看護科) 佐賀大学医学部附属病院 看護師
12	1月12日	農学部出身の先輩に聞く	橋 口 敏 光 (S52・園芸) バイオニア エコサイエンス株式会社
13	1月19日	農学部出身の先輩に聞く	原 口 真 由 子 (H14・応用生物) 鳥栖・三養基地区消防本部
14	1月26日	総括(1)	
15	2月2日	総括(2) (学生の質問に答える)	
16	2月9日	定期試験	

大学及び同窓会の動き (H22.7～H22.12)

- | | |
|--|--|
| <p>H22.7.1 佐大同窓会会報「楠の葉」No.13 発行
5 佐賀大学校友会 役員会
21 佐大同窓会「第3回代表役員会・歓送迎会」
／グランデはがくれ
8.21 佐賀大学校友間交流支援事業「キャンパスツアー」
9.1 佐大同窓会 キャリアデザイン講座打ち合わせ会
15 佐大同窓会「第4回代表役員会」
25 諫早支部総会・懇親会／ニューステーションホテル
10.6 単位提供講座「キャリアデザイン」
開講ガイダンス
6 佐大同窓会「第5回代表役員会」
8 第32回むつごろう祭（鍋島キャンパス）
～10日まで
13 単位提供講座キャリアデザイン
／講師 原 佳祐 氏（経済学部）
14 佐大同窓会「秋期定例役員会」
20 単位提供講座キャリアデザイン
／講師 古川里紗 氏（経済学部）
27 単位提供講座キャリアデザイン
／在学生（就職内定者5名）
29 第32回「クリエイティブ21」
／佐賀大学大学院工学系研究科長 林田行雄 氏
11.10 単位提供講座キャリアデザイン
／講師 田本嘉昭 氏（文化教育学部）</p> | <p>10 佐大同窓会会報「楠の葉」No.14 編集会議
13 大分支部総会・懇親会／大分第一ホテル
13 筑後支部総会・懇親会／ランヴィエール勝島
13 佐賀大学大学祭（本庄キャンパス）
～14日まで
17 単位提供講座キャリアデザイン
／講師 川原まりこ 氏（文化教育学部）
17 佐賀大学同窓会と就職内定者との懇談会
／大学会館
18 東京支部総会・懇親会／八重洲富士屋ホテル
20 佐世保支部総会・懇親会／レオプラザホテル
20 第18回佐賀県青春歌祭／エスプラッツホール
24 単位提供講座キャリアデザイン
／講師 矢島立朗 氏（理工学部）
12.1 佐大同窓会「第6回代表役員会」
・「佛淵学長を囲む会」／佐嘉神社記念館
1 単位提供講座キャリアデザイン
／講師 牛島直記 氏（理工学部）
8 単位提供講座キャリアデザイン
／在学生（就職内定者5名）
15 単位提供講座キャリアデザイン
／講師 坂西雄太 氏（医学部）
22 単位提供講座キャリアデザイン
／講師 藤瀬佳菜子 氏（医学部）</p> |
|--|--|

★ ご意見メール等募集 ★

会報についてのご意見をお寄せいただく場合は、郵送のほか電話またはE-mailでも受付けております。